

1. 科目名 (単位数)	経済学特論 (2単位)	名古屋	3. 科目番号	SSMP5355
2. 授業担当教員	水野 満			
4. 授業形態	講義、演習の方法をとる。オンライン授業の場合は工夫して、できるだけリアルなやりとりもしていきたい。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特に指定しない。			
7. 講義概要	本学大学院で学ぶのが相当と考えるレベルの経済学を定評のあるテキストを使って講義・演習する。社会保障・福祉や日本経済をはじめとする実際の経済との関連についても考える。			
8. 学習目標	経済学的視点からの分析能力を高め、論文の執筆の十分な拠り所となるような識見を高める。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	数回、学習の理解度を試すためにミニテストを実施するとともにレポート課題を課す。また講義内で授業の理解度を試すための質問をするので、質問に答えられるよう、講義の予習・復習を持続的に行うこと。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ共著 『スティグリッツ 入門経済学』 第4版 (藪下史郎、秋山太郎、蜂川靖浩、大阿久博、木立力、宮田亮、清野一治訳) 東洋経済新報社 2012年</p> <p>【参考書】 小峰隆夫・村田恵子共著『最新日本経済入門』第5版 日本評論社 石山喜英著 『超高齢化社会の経済学』日本評論社 ニコラス・バー著『福祉の経済学 21世紀の年金・医療・失業・介護』光生館、2007 今村知明・康永秀生・井出博生共著『医療経営学(第2版) - 病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』医学書院</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 この講義を受講後、受講前の状態に比べて、どの程度経済に関心が持て、経済的観点から社会福祉等の問題を考えるようになったかを基に評価。</p> <p>○評定の方法 発表・・・30% ミニテスト・・・30% レポート・・・40%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	経済学の学習を通じて、経済的現象を客観的にみる眼を養ってほしい。また新聞、雑誌等を通じて経済記事に関心を持ってほしい。			
13. オフィスアワー	授業終了後1時間			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	現代の経済学、経済学の考え方			
【学習の目標】	経済学を支える基本的な考え方を確認する。			
【学習の内容】	経済を構成する各主体はいわば自己にとつての損になることを吟味し、得になることを吟味し、両者を比較したうえで、行動を選択・決定する、という(一見すると社会福祉の考え方と相いれない)考え方をとる(ただ他人の効用を自分の効用に入れればこの問題は解決する)。また、基本的な経済モデルの中で登場する主体は、通常、消費者と企業の2つに大別する、といった大胆な簡略化をとる。それがどうして可能であるのか、その簡略化によってももちろん切り捨てられるものもあるが、明確に見えてくるものもある。それを学習する。			
【キーワード】	インセンティブ トレードオフ 情報 交換 分配 因果関係と相関関係 機会費用 サンクコスト			
【学習の課題】	映画館にカネを払って入って[つまらない]と思ってまた途中で出るヒトはまらだと思ふ。本当に忙しい人と無駄な話で時間をつぶすと何かモノを盗んだかのようないやな顔をされる。それらはなぜか考えること。			
【学習する上での留意点】	経済学を支える基本的な考え方は必ず現実社会の一部を捉えている。その対応関係に注目すること。			
2. テーマ	需要、供給、価格			
【学習の目標】	経済モデルを支える二つの主体、消費者および企業の行動について学習する。			
【学習の内容】	第1回で確認した、消費者と企業がどのような行動をとるか確認する。その結果、需要曲線および供給曲線がどのようなプロセスで導出されるかを確認する、右下がりの需要曲線と右上がりの供給曲線の交点で、市場における均衡価格と均衡取引量が決まるという図はどこかで見た経験があると思う。(忘れてしまったら講義中再確認します)それはシンプルだけど深遠である。その意味することを味わってほしい。			
【キーワード】	合理的な消費者 利潤最大化企業 個別需要曲線 市場需要曲線 供給曲線			
【学習の課題】	例えば100円ショップはバブル期には絶対現れえない、日本のデフレ期の産物である。それで助かっている人も多いだろうが、本当に手放しにいいのだろうか。それについて考えること。			
【学習する上での留意点】	経済学では主体内におけるバランスと主体間のバランスの2つのバランスを考える。それをもとに世の中を眺めてほしい。			
3. テーマ	需要・供給分析の応用			
【学習の目標】	消費者および企業の行動にかかわる、価格の弾力性を学習する。			
【学習の内容】	第2回の消費者と企業の行動の続きとして、価格の弾力性を学習する。第2回で学んだように、価格が安く(高く)なれば消費者(企業)は多くモノを買おう(売ろう)とする、しかし、量の変化は例えば消費者のタイプや財の性質によって違うだろう。これを描写する概念として価格の弾力性に注目する。また、価格の上限規制あるいは下限規制についても学習する。			
【キーワード】	需要の価格弾力性 供給の価格弾力性 価格の上限規制 価格の下限規制			
【学習の課題】	例えば最低賃金法というものがある。これは労働者に支払う賃金の最低水準を政府が一律に決めてしまうものであり、これは一見労働者を保護するための政策であるが、それは正しいか。			

	<p>【学習する上での留意点】 政府がある主体の保護を目論んで定めた政策の中に、かえってその主体の利益を害することになった法律が実際ある。そのような現実との対応関係を留意しながら学習すること。</p>
4. テーマ	市場の効率性①
	<p>【学習の目標】 市場の効率性を測る指標として余剰を学習する。</p> <p>【学習の内容】 経済学は経済全体の厚生を最大化することを目指す、その基準の概念として、余剰という考え方を学習する。市場というものが機能していると本来高価で一人では手に入らないものが手に入るケースがある（書籍などのケースを考えよ）。その結果、企業、消費者ともども市場に参加することの利益が享受できる。そういった市場メカニズムの利点を余剰の最大化の観点から確認する。</p> <p>【キーワード】 消費者余剰 生産者余剰 余剰分析 部分均衡分析</p> <p>【学習の課題】 市場開放とか市場主義という言葉聞いたことがあるかもしれないが、この市場の利点についてしっかり学習すること。</p> <p>【学習する上での留意点】 余剰分析を通じて、うすうすわかっていることをはっきりわかることの重要性を認識してほしい。</p>
5. テーマ	市場の効率性②
	<p>【学習の目標】 市場の効率性を測る指標としてパレート最適について学習する。</p> <p>【学習の内容】 経済における効率性を測る指標としてパレート最適やパレート改善といった概念について学習する。</p> <p>【キーワード】 パレート最適 パレート改善 一般均衡分析</p> <p>【学習の課題】 余剰分析の発展として一般均衡分析におけるパレート最適という概念を学習する。</p> <p>【学習する上での留意点】 細かい点の理解より大枠の理解を優先すること。</p>
6. テーマ	不完全市場入門①
	<p>【学習の目標】 不完全市場や不完全情報について学習する。</p> <p>【学習の内容】 第4回で市場それ自体に厚生や余剰を増やす機能があることを確認した。しかし、それには条件があって市場に独占的に支配力を行使できる主体がないこと、およびすべての主体が完全情報を持っていないことなどがあげられる。そのような市場に独占力が行使できる主体はどう行動するであろうか。およびその結果どのような影響が経済に及ぶかについて学習する。また、情報が不足しているとき、経済ではどういうことが起きるかも学習する。</p> <p>【キーワード】 不完全市場 不完全情報 逆選択 モラルハザード</p> <p>【学習の課題】 例えばあるヒトから仕事を頼まれたとき、前金で報酬が与えられるのと出来高に応じて後から報酬が与えられるのでは、（よほどお人よしでない限り）どっちの場合が忠実に仕事をするであろうか。それはなぜか。</p> <p>【学習する上での留意点】 情報の非対称性の問題は医療や福祉の分野で頻繁に取り上げられるのでしっかり学習すること。</p>
7. テーマ	不完全市場入門②
	<p>【学習の目標】 市場の失敗（公共財、外部性）について学習する。</p> <p>【学習の内容】 警察や消防は今や社会にはなくてはならないものだが、企業の中に、自ら進んで警察や消防を営もうとするものがあるだろうか。それはなぜか。ここでは価格に注目して各主体が損得のバランスを取り、市場を通じて主体間のバランスをとるだけでは達成できない例（市場の失敗）を確認し、それがなぜ発生するかとともに、ここで上がった市場の失敗の概念で他にどのようなことが説明できるかも確認する。</p> <p>【キーワード】 外部性 公共財 市場の失敗</p> <p>【学習の課題】 赤城山とディズニーランドの違いは何か。医療に保険が付される状況はいかに説明できるか。</p> <p>【学習する上での留意点】 外部性や公共財は医療保険制度や年金制度を説明する道具としてよく用いられるのでしっかり学習すること。</p>
8. テーマ	公共部門
	<p>【学習の目標】 所得の再分配における政府の役割について学習する。</p> <p>【学習の内容】 政府が存在する条件として、所得の再分配を中心に学習する。経済はほっておくと富んでいる主体のみがますます富むという事態になりかねない。ここに登場するのが、また政府である。しかし、無尽蔵に所得の乏しい主体の所得の充実のみを考えると、財源等の問題から経済に違った問題が生じうる。こういったバランスの観点からも所得の再分配の問題を考える。</p> <p>【キーワード】 所得の再分配 税制 所得移転 財政赤字 公的年金</p> <p>【学習の課題】 所得の再分配の問題は年金、医療保険など社会保障の問題とリンクするところが大きい。講義の中でその関連についても触れるつもりである。</p> <p>【学習する上での留意点】 現実との対応関係に注意して学習すること。</p>
9. テーマ	マクロ経済学と完全雇用①
	<p>【学習の目標】 GDP、インフレーション、失業といったマクロ経済の基本的な概念をしっかりとおさえること。</p> <p>【学習の内容】 日ごろニュースや新聞等で、GDPという言葉を目にしたことがない人はいないであろう。しかし、それを正しく定義することができるだろうか。今回はGDP、失業、インフレーションといったいわゆるマクロ経済学を支える概念をしっかりと把握することを目指す。それを通じて各種経済データを正しく把握する眼が養われることになる。</p> <p>【キーワード】 GDP インフレーション 失業 トレード・オフ</p> <p>【学習の課題】 失業といっても景気の動向とリンクした失業もあれば、うまくリンクしない失業もある。</p> <p>【学習する上での留意点】 GDP、インフレーション、失業といったマクロ経済の基本的な概念を測る指標をしっかりとおさえること。</p>
10. テーマ	マクロ経済学と完全雇用②
	<p>【学習の目標】 労働市場や資本市場を支える概念をしっかりとおさえること。</p> <p>【学習の内容】 前半のマクロ経済学の範囲では、市場を一括して学習したが、実際の経済には様々な市場が混在する。そのために</p>

	<p>は前半よりやや複雑な分析が必要となる。例えば、生産物（財）市場では家計は需要者だが、労働市場では供給者の立場をとる。ここでは、市場を労働市場、資本市場、生産物市場の3つにわけ、それぞれの特色を見たとうえで、それらの統合を計る。</p> <p>【キーワード】 労働市場 生産物市場 資本市場 賃金の下方硬直性 流動性選考</p> <p>【学習の課題】 いわゆるマクロ経済学には新古典派の立場とケインズ派の立場がある。後者のケインズ派の立場の理論は新古典派の批判・再検討からはじまるが、その理論の展開をたどると現実の経済を見る様々な視点が見えてくる。ケインズ派の理論の展開を通じて、現実のマクロ経済を見る眼を養うことを目指す。</p> <p>【学習する上での留意点】 現実との対応関係に注意して学習すること。</p>
11. テーマ	マクロ経済学と完全雇用③
	<p>【学習の目標】 いわゆるケインズ派の一般均衡について学習する。</p> <p>【学習の内容】 第10回の続きとして、労働市場、生産物市場、資本市場の3つの市場を統合してケインズ派の一般均衡を完成させる。</p> <p>【キーワード】 ケインズ派と新古典派 新古典派の第1公準（第2公準） 完全雇用</p> <p>【学習の課題】 引き続きケインズ派の理論の展開を通じて、現実のマクロ経済を見る眼を養うことを目指す。</p> <p>【学習する上での留意点】 現実との対応関係に注意して学習すること。</p>
12. テーマ	経済成長
	<p>【学習の目標】 経済成長について理論と実証の両面から学習する。</p> <p>【学習の内容】 11回までの経済は経済の規模が増えない（静態的な）経済であるが、ここでは規模が拡大する経済を考える。例えば発展途上国の経済の厚生の問題を考えた場合、今の経済状況自体に問題があり、それ自体が拡大しなくては経済的に望ましい状態にならないのであるから、経済規模が増大する状況（経済成長）を考えなくてはならない。ここでは経済成長の問題を理論と実証の両側面から確認する。また東アジアの実例も踏まえて学習する。</p> <p>【キーワード】 経済成長 貯蓄と消費 技術進歩 教育の効果 成長の要因 東アジアの奇跡</p> <p>【学習の課題】 経済厚生をみる新たな視点として経済成長の問題を学習する。</p> <p>【学習する上での留意点】 東アジアの経済にかかわる問題に関心のある学生はこの回の学習事項を大切にしてほしい。</p>
13. テーマ	失業とマクロ経済
	<p>【学習の目標】 マクロ経済における需要サイドを深く学習する。</p> <p>【学習の内容】 消費税率が引き上げになった直後、それまで順調に回復の兆しを見せた消費が再び低迷した。これは経済の需要サイドに及ぼす影響に対する予想と現実が食い違った結果とも考えられる。ここではあらためて経済を供給、需要の2つの側面に分けて考え、特に需要の不足が経済全体に及ぼす影響を考える。また、需要サイドを消費、投資等に分け、それぞれにかかわるトピックについても学習する。</p> <p>【キーワード】 不完全雇用 有効需要、景気循環 限界消費性向 乗数効果</p> <p>【学習の課題】 マクロ経済における需要サイドについて学習する。</p> <p>【学習する上での留意点】 現実との対応関係に注意して学習すること。</p>
14. テーマ	インフレーションと総需要・失業
	<p>【学習の目標】 インフレと失業のトレード・オフについて学習する。</p> <p>【学習の内容】 インフレと失業はともに経済にとつて避けたい事態であるが、これら二つの同時の解決は難しい。いわば、両者のトレード・オフを考えて、政策を考えなくてはならない。その結果発生してしまう失業等はやむをえないものとして考える。ここでは失業とインフレの間の政策上のバランス感覚について学習する。</p> <p>【キーワード】 インフレ供給曲線 インフレ需要曲線 自然失業率</p> <p>【学習の課題】 失業とインフレの間の政策上のバランス感覚を養う。</p> <p>【学習する上での留意点】 現実との対応関係に注意して学習すること。</p>
15. テーマ	グローバル危機：金融システム、世界経済、地球環境
	<p>【学習の目標】 経済のグローバル化に伴う諸問題について考察する。</p> <p>【学習の内容】 TPP, RCEP, EU との EPA の締結等、経済のグローバル化が進んでいるという実感はだれしも持っていると思う。グローバル化はもちろんいい面もあるが、世界経済はそれと合わせて、金融システムや地球環境の問題を文字通り地球規模で抱えることになった。ここでは、経済のグローバル化に伴い、世界経済がどのような問題を抱えるようになったかについて学習する。</p> <p>【キーワード】 金融危機 サブプライム問題 ユーロ危機 地球環境</p> <p>【学習の課題】 経済のグローバル化に伴い、世界経済がどのような問題を抱えるように至ったかを考える。</p> <p>【学習する上での留意点】 現実との対応関係に注意して学習すること。</p>